

2023 年 10 月 1 日 午前 10 時 30 分
 聖霊降臨節第 19 主日礼拝 世界聖餐日
 司会 植松みよ
 奏楽 徳江由利

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)
 前奏
 招きのことば コリント I 9:19, 23
 讚美歌 56 「主よのちのパンを割き」 一同
 詩編交読 9:1-13(P. 15/11) 一同
 祈り 司会者
 <関東教区お祈りカレンダー>
 水戸中央教会 水戸自由が丘教会 土浦教会
 (主の祈り)

讚美歌 375 「賜物と歌を」 一同

聖書 新約 ヤコブ 2:1-9(P. 422)
 メッセージ 『そこにひとりの人間が』
 祈り 川上盾 牧師

讚美歌 413 「キリストの腕ま」 一同
 < 聖餐式 (讚美歌 376-1, 3 節) >

献金 一同
 (献金感謝の祈り)

信仰告白 (カナダ合同教会) 一同
 派遣讚美歌 376-4 節
 派遣・祝祷 川上盾 牧師
 後奏
 報告・紹介

<招きのことば> コリントの信徒への手紙 I 9:19, 23
 わたしは、誰に対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。……
 福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。

<10 月礼拝当番> 服部直子 岩渕デボラ
 大野美子 今村玲子
 村上祐介 伴 尚子

<今週の集会・行事>
 ◎ 本日礼拝後 うどん食堂 10 月定例役員会
 ◎ 4 日(水) 10:30 & 19:30 聖研祈禱会
 ◎ 6 日(金) 地区婦人部全体集会 10:00 高崎教会
 ◎ 7 日(土) 10:00 会堂清掃 E 組
 ◎ 7 日(土) 午後 新島学園聖歌隊リハーサル

<次週の主日>
 ◎ 主日礼拝 10:30 CS 合同音楽礼拝
 メッセージ 『赦し合い共に生きる』川上牧師
 聖書: 新約 ルカ 17:3-4(P. 142)
 新約 フィレモン 8-12, 17 (P. 399)
 讚美歌 361, 575, 28
 交読詩編 82:1-8(P. 95/91)
 司会: 楠元 桃 奏楽: 新島学園聖歌隊
 ◎ 礼拝後、ミニ・コンサート

<予告>
 ◎ 群馬地区教会こどもの集い 14 日(土) 10:00 於・新島短大
 ◎ 婦人会例会 19 日(木) 10:30
 ◎ 26 日に予定していた“さんびカフェ”は、都合により延期となりました。
 ◎ 群馬地区大会 11/23(木) 10:30 新島短大
 「腐ってもタイ、くさくてもれんタイ」
 講師: 荒谷陽子牧師(北海道・置戸教会)
 同日午後、地区役員研修会も行われます。

<<報告>>
 ◎ 本日は世界聖餐日礼拝です。

世界聖餐日は 1946 年、第二次世界大戦の深い傷跡の後、世界中の教会が聖餐をとおしてキリストにある交わりを確かめ、全教会の一致を求めて始められた行事です。世界教会協議会(WCC)の呼びかけにより行われています。国と国の違いを超えて、共に歩む教会の姿を目指し、「主の食卓」にあずかりましょう。



◎ 次週は新島学園聖歌隊を迎える礼拝です
 ハンドベルの演奏、合唱、それにオルガン奏楽まで、すべて新島学園聖歌隊の皆さんにより行われます。礼拝後、ミニ・コンサートも行われます。あと一週間、伝道の時としましょう。お知り合いの方々をお誘い下さい。

◎ クリスマスに受洗を希望される方
 希望者は川上牧師までお申し出下さい。今年には既に志願者がおられ、事情により準備会を ZOOM を用いる形で早めにご始めることになりました。11 月には始まりますので、他に希望される方は 10 月中にお申し出下さい。

◎ 桐生東部教会・会堂建築のための献金
 教会改築の計画を進めていたところ、アスベスト処理で想定外の費用がかかることになったそうです。教会会計から献金するだけでなく、個人としての献金も呼びかけて、併せて送りたいと思います。10 月・11 月の間募集します。献金袋に入れて募金箱にお届け下さい。地区の連帯の証として、どうぞご協力下さい。

<<先週の集会>>

	礼拝堂	オンライン	献金	
主日礼拝	54	22	37,792	
	ジュニア	シニア	婦人・大人	計
C/S 午後礼拝	5	6	12	19

《メッセージ》『富の用い方・向き合い方』川上牧師
 アモス 8:4-7, ルカ 16:1-9 (9 月 24 日)
 ▼富や権力を手にした時、それをどのように用いるか... そこにその人の人間性が現れる。アモス書で耕すや分銅の細工をし、容量を偽って取り分をごまかし、弱者から収奪する商人への戒めが語られる。正義と公正の神は不正を決して見過ごしにされぬ、と。▼群馬でも江戸時代、沼田の領主(真田信利)が同じ手法による搾取をした。これに対して立ち上がった領民が『天下の義人・茂左衛門』である。いかなる権力者・お金持ちでも、不正は断じて許されない。▼一方の解釈は奇々怪々なイエスのたとえ話。主人の財産を使い込み、それを売ってクビになりそうになった管理人、彼は何とその主人に借財をしていた人の負債を、次々に軽減し始めたのだ。「こうして恩を売っておけば、クビになった時、家を迎えてくれるだろう」ということか。▼理不尽な話である。そんな管理人はさぞかし厳しく戒められたに違いない... そんな私たちの予測を尻目に、イエスは言われる。「主人は不正な管理人の、この抜け目ないやり方をほめた」。そして「不正の富を用いてでも友だちを作りなさい」と言われるのだ。▼納得がいかない話であるが、イエスの真意を考えてみよう。この管理人は確かに不正な男だ。しかしその不正は、主人に対してだけのもの。一方の借財をしている人の立場に立てばどうか。それは月報であり、借金の苦しみからの救いがある。たとえある人からは不正と見られても、苦しんでいる人が救われている... イエスはそのことをほめられているのではないだろうか。▼富や財産というものに私たちの心はとらわれる。なぜかと言えば、自分の欲望を叶えてくれるからだ。そして富を手に入れたら、できるだけ大切に無駄にしないよう心掛ける... それは当たり前的心情だ。▼しかし富や財産を大切にすることと、それに執着することとの違いは見きわめる者でありたい。アモス書の商人や真田の殿様は、自分の欲望を中心に考え、富に執着した。これに対してイエスが示されたのは、富を自分の欲望のためだけに用いるのではなく、隣人のために用いる道だ。そこに祝福される富の用い方・向き合い方がある。▼最後に、まったく異なる解釈を紹介したい。それはこの譬えの中の「借金・負債」という言葉を、「私たちの罪」と読み替える解釈だ。聖書で神への罪まじまじは「負債」と表される(主の祈り)。▼神さまに対して日々罪を犯してしまう私たち。しかしその私たちが、自分ご罪を犯した人を赦すなら、そこには神の祝福がある、ということだ。▼人を赦すというのは難しい。しかし、自分が赦されていることを知ることによって、囚われから解放され、率先して人を赦す道へと進んでゆけるのではないかと。